

1

人口 · 自然



人口

1-01

912万6千人

指標 2015年10月1日現在の神奈川の人口は912万6214人で、全国第2位です。これは、アラブ首長国連邦(UAE)の総人口(915万7千人,2015年)と同じくらいです。

首都圏の1都3県*の人口は約3613万人で、全国の約28.4%を占めます。

県別の人口は、800万人以上は東京、神奈川、大阪の3県である一方、200万人未満の県は30県となっています。

*1都3県は埼玉、千葉、東京、神奈川としています。

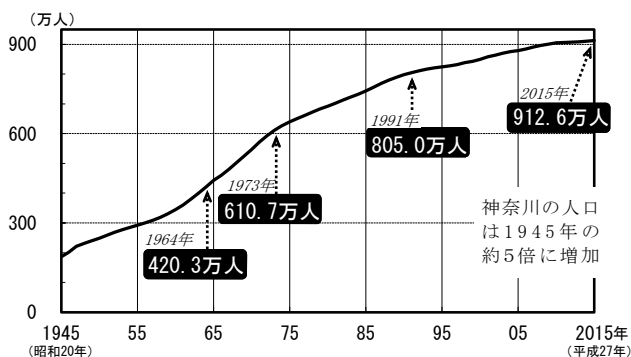
この統計は [平成27年国勢調査][世界の統計2017]

用語 人口

国勢調査では、調査年の10月1日午前零時現在の「常住人口」を調査しています。常住人口とは、調査時に常住している場所で調査する方法(常住地方式)による人口をいいます。

日本国内に常住する外国者は、基本的に調査の対象ですが、外国政府の外交使節団・領事機関の構成員(随員を含む。)及びその家族や、外国軍隊の軍人・軍属及びその家族は除外しています。

神奈川の人口の推移(1945~2015年)



神奈川の人口は戦後、毎年一貫して増加しています。終戦の年の1945年に186万6千人でしたが2015年は912万6千人と1945年の約5倍です。なお、神奈川の人口は1964年に400万人、1973年に600万人、2009年に900万人を超えました。

この統計は [人口推計]

人口密度(1km²あたり)

1-02

3777.7人/km²

指標 2015年10月1日現在の神奈川の人口密度は3777.7人/km²で、全国第3位です。これは、全国平均の約11倍、最も人口密度が低い北海道の約55倍です。

人口密度が3000人/km²以上は、神奈川を含め3県ある一方、300人/km²未満は25県あり、そのうちの3県は100人/km²未満です。

この統計は [平成27年国勢調査][平成27年全国都道府県市区町村別面積調]

用語 人口密度

人口密度=都道府県別人口/都道府県別面積

人口増減率(自然増減率・社会増減率)

人口増減率0.20%

1-03
1-04
1-05

指標 2016年の神奈川の人口増減率は、0.20%です。この1年間で人口が増加した県は、神奈川を含め7県で、40県で減少しています。

2016年の神奈川の自然増減率は、-0.04%です。神奈川を含め44県で死亡者数が出生児数を上回る自然減少となり、3県で自然増加となりました。

また、2016年の神奈川は社会増減率は、0.24%です。神奈川を含め15県で、県外からの転入者が転出者を上回る社会増加となり、32県で転出者が転入者を上回る社会減少となりました。

この統計は [人口推計]

用語 人口増減率、自然増減率、社会増減率

- ・人口増減率=人口増減数/期首人口
- ・自然増減率=(出生児数-死亡者数)/期首人口
- ・社会増減率=(入国超過数+都道府県間転入超過数)/期首人口

※入国超過数=入国者数-出国者数

都道府県間転入超過数=都道府県間転入者数-都道府県間転出者数

統計情報 国勢調査

平成27年国勢調査 [総務省統計局]
公表日:2016.2.26~順次公表
公表周期:5年ごと
日本の人口・世帯の実態を明らかにすることを目的として行う国の最も重要な統計調査で、日本国内に住んでいるすべての人及び世帯を対象としています。

統計情報 人口推計

人口推計(平成28年10月1日現在)
[総務省統計局]
公表日:2017.4.14 公表周期:毎年
国勢調査の実施間の時点における各月、各年の人口の状況を把握するために行うものです。

統計情報 世界の統計

世界の統計2017 [総務省統計局]
刊行日:2017.3
世界各国の人口、経済、社会、文化などの実情や世界における日本の位置づけを知るために参考となる様々な統計を簡潔に編集したものです。

●人口 1-01

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	127,095		全国	
		千人			千人
1	東京	13,515	38	秋田	1,023
2	神奈川	9,126	39	香川	976
3	大阪	8,839	40	和歌山	964
4	愛知	7,483	41	山梨	835
5	埼玉	7,267	42	佐賀	833
6	千葉	6,223	43	福井	787
7	兵庫	5,535	44	徳島	756
8	北海道	5,382	45	高知	728
9	福岡	5,102	46	島根	694
10	静岡	3,700	47	鳥取	573

平成27年国勢調査



●人口密度 1-02

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	340.8		全国	
		人/km ²			人/km ²
1	東京	6,168.7	38	長野	154.8
2	大阪	4,639.8	39	宮崎	142.7
3	神奈川	3,777.7	40	福島	138.9
4	埼玉	1,913.4	41	青森	135.6
5	愛知	1,446.7	42	山形	120.5
6	千葉	1,206.5	43	島根	103.5
7	福岡	1,023.1	44	高知	102.5
8	兵庫	658.8	45	秋田	87.9
9	沖縄	628.4	46	岩手	83.8
10	京都	566.0	47	北海道	68.6

平成27年国勢調査

●人口増減率 1-03

2016年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	-0.13		全国	
		%			%
1	東京	0.80	38	徳島	-0.74
2	沖縄	0.40	39	愛媛	-0.75
3	愛知	0.32	40	長崎	-0.75
4	埼玉	0.32	41	新潟	-0.80
5	千葉	0.21	42	岩手	-0.91
6	神奈川	0.20	43	山形	-0.96
7	福岡	0.06	44	和歌山	-0.99
8	滋賀	-0.01	45	高知	-1.00
9	大阪	-0.08	46	青森	-1.13
10	宮城	-0.16	47	秋田	-1.30

人口推計

●自然増減率 1-04

2016年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	-0.23		全国	
		%			%
1	沖縄	0.38	38	新潟	-0.55
2	東京	0.02	39	徳島	-0.56
3	愛知	0.02	40	山口	-0.58
4	滋賀	-0.00	41	島根	-0.59
5	神奈川	-0.04	42	和歌山	-0.61
6	埼玉	-0.09	43	岩手	-0.64
7	福岡	-0.11	44	山形	-0.65
8	千葉	-0.15	45	青森	-0.66
9	大阪	-0.17	46	高知	-0.72
10	兵庫	-0.21	47	秋田	-0.91

人口推計

●社会増減率 1-05

2016年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	0.11		全国	
		%			%
1	東京	0.78	38	奈良	-0.26
2	埼玉	0.40	39	岩手	-0.26
3	千葉	0.36	40	高知	-0.28
4	愛知	0.30	41	山形	-0.31
5	神奈川	0.24	42	長崎	-0.31
6	福岡	0.17	43	宮崎	-0.31
7	大阪	0.09	44	熊本	-0.34
8	宮城	0.08	45	和歌山	-0.38
9	群馬	0.08	46	秋田	-0.39
10	京都	0.04	47	青森	-0.47

人口推計

統計情報 全国都道府県市区町村別面積調

平成27年全国都道府県市区町村別面積調
 [国土交通省国土地理院]
 公表日：2016.2.24 公表周期：毎年
 測量法（昭和24年法律第188号）第12条の基本測量に関する長期計画に基づき、平成27年10月1日現在の日本の面積を取りまとめた技術資料です。

注釈

- 1-01
 - 1) 2015年10月1日現在の値。
- 1-02
 - 1) 2015年10月1日現在の値。
 - 2) 面積は全国都道府県市区町村別面積調[国土交通省国土地理院]による。河川及び湖沼は陸域に含めている。
 - 3) 国勢調査令（昭和55年政令第98号）の規定に基づき、調査の対象から除外した次の地域の面積は除いて算出した。
 - ・歯舞諸島
 - ・北方地域（色丹島、国後島、択捉島（属島を含む））
 - ・竹島

平均寿命

男性 80.25年 1-06
女性 86.63年 1-07

指標 2010年における神奈川の男性の平均寿命は80.25年で、全国第5位となっています。長野が80.88年で最も長く、次いで滋賀(80.58年)、福井(80.47年)の順となっています。

神奈川の女性の平均寿命は86.63年で、全国第15位となっています。長野が87.18年で最も長く、次いで島根(87.07年)、沖縄(87.02年)の順となっています。

全国の平均寿命は、男性が79.59年、女性が86.35年となっています。男女間を比較すると、全国では女性が男性よりも6.76年上回り、神奈川では女性が6.38年上回っています。

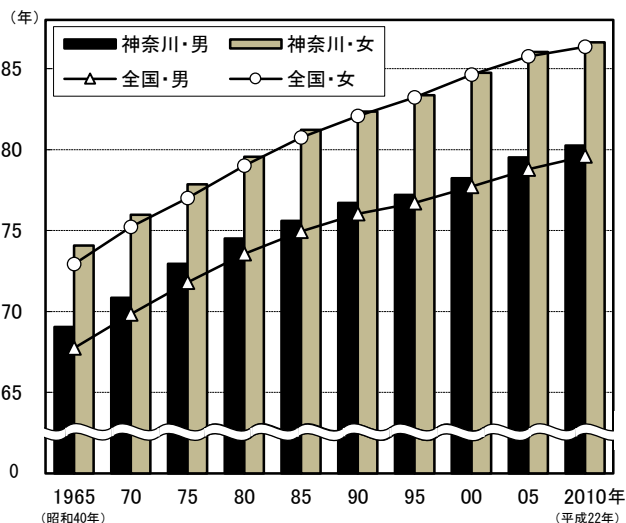
この統計は [平成22年都道府県別生命表]

用語 平均寿命、平均余命

平均余命とは、x歳の者がx歳以降に生存する年数の平均を、「x歳における平均余命」といいます。

特に0歳における平均余命を、「平均寿命」といいます。

神奈川の平均寿命の推移



神奈川の平均寿命の推移をみると、男女ともに右肩上がりで推移しており、男女ともに全国を若干上回っています。

この統計は [平成22年都道府県別生命表]

婚姻率 (人口1000人当たり)

5.37 1-08

離婚率 (人口1000人当たり)

1.81 1-09

指標 2015年の神奈川の人口1000人当たりの婚姻率は5.37で、全国第6位となっています。

一方、2015年の神奈川の人口1000人当たりの離婚率は1.81で、全国第12位となっています。

なお、婚姻率上位10位の県のうち、4県が離婚率上位10位以内に入っています。

この統計は [平成27年人口動態統計(確定数)]

用語 婚姻率、離婚率

年間の婚姻届出件数、離婚届出件数を10月1日現在の日本人人口で割ったものです。

婚姻率=年間婚姻届出件数/日本人人口×1000

離婚率=年間離婚届出件数/日本人人口×1000

ここでいう婚姻届出件数及び離婚届出件数は、各年1月1日から同年12月31日までの間に、市区町村長に届出のあった件数をいいます。

合計特殊出生率

1.39 1-10

指標 2015年の神奈川の合計特殊出生率は1.39で、全国第38位となっています。最も低い東京は1.24、最も高い沖縄は1.96、全国平均は1.45です。

この統計は [平成27年人口動態統計(確定数)]

用語 合計特殊出生率

合計特殊出生率は「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当します。なお、算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいます。

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{年間の母の年齢別出生数}}{\text{10月1日現在年齢別女性人口}} \right\} \times$$

※15歳から49歳までの合計

統計情報 都道府県別生命表

平成22年都道府県別生命表 [厚生労働省]
公表日：2013.2.28 公表周期：5年ごと
生命表とは、各年齢の者が死亡する確率や平均してあと何年生きるかという期待値などを死亡率や平均余命などの指標によって表したものです。ほかに、全国単位の「完全生命表」「簡易生命表」、市区町村単位の「市区町村別生命表」があります。

統計情報 人口動態統計

平成27年人口動態統計(確定数)[厚生労働省]
公表日：2016年12月5日 公表周期：毎年
「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を調査対象としています。この統計は、年間推計、速報、月報(概数)、月報年計(概数)、年報(確定数)の5種類があります。

●平均寿命(男性) 1-06

2010年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
		年			年
	全国	79.59			
1	長野	80.88	38	栃木	79.06
2	滋賀	80.58	39	山口	79.03
3	福井	80.47	40	鳥取	79.01
4	熊本	80.29			
5	神奈川	80.25	41	大阪	78.99
			42	高知	78.91
6	京都	80.21	43	長崎	78.88
7	奈良	80.14	44	福島	78.84
8	大分	80.06	45	岩手	78.53
9	山形	79.97			
10	静岡	79.95	46	秋田	78.22
			47	青森	77.28

平成22年都道府県別生命表

●平均寿命(女性) 1-07

2010年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
		年			年
	全国	86.35			
1	長野	87.18	38	福島	86.05
2	島根	87.07	39	秋田	85.93
3	沖縄	87.02	40	大阪	85.93
4	熊本	86.98			
5	新潟	86.96	41	群馬	85.91
			42	埼玉	85.88
6	広島	86.94	43	岩手	85.86
7	福井	86.94	44	茨城	85.83
8	岡山	86.93	45	和歌山	85.69
9	大分	86.91			
10	富山	86.75	46	栃木	85.66
			47	青森	85.34
15	神奈川	86.63			

平成22年都道府県別生命表

●婚姻率 1-08

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
		(人口1000人当たり)			
	全国	5.07			
1	東京	6.64	38	徳島	4.29
2	沖縄	6.11	39	島根	4.25
3	愛知	5.61	40	山口	4.24
4	福岡	5.45			
5	大阪	5.38	41	高知	4.22
			42	奈良	4.20
6	神奈川	5.37	43	青森	4.16
7	千葉	4.93	44	新潟	4.12
8	滋賀	4.92	45	岩手	4.11
9	宮城	4.88			
9	広島	4.88	46	山形	4.04
			47	秋田	3.54

平成27年人口動態統計(確定数)

●離婚率 1-09

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
		(人口1000人当たり)			
	全国	1.81			
1	沖縄	2.53	38	徳島	1.61
2	宮崎	2.10	39	岐阜	1.56
3	北海道	2.09	40	福井	1.54
4	大阪	2.08			
5	福岡	1.99	41	岩手	1.53
			42	秋田	1.50
6	和歌山	1.97	43	石川	1.49
7	鹿児島	1.88	44	島根	1.48
8	高知	1.87	45	富山	1.40
9	熊本	1.85			
10	東京	1.84	46	新潟	1.39
			47	山形	1.35
12	神奈川	1.81			

平成27年人口動態統計(確定数)

●合計特殊出生率 1-10

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	1.45			
1	沖縄	1.96	38	埼玉	1.39
2	島根	1.78	38	神奈川	1.39
3	宮崎	1.71	38	大阪	1.39
4	鹿児島	1.70			
5	熊本	1.68	41	千葉	1.38
			41	奈良	1.38
6	長崎	1.67	43	宮城	1.36
7	鳥取	1.65	44	秋田	1.35
8	佐賀	1.64	44	京都	1.35
9	福井	1.63			
9	香川	1.63	46	北海道	1.31
			47	東京	1.24

平成27年人口動態統計(確定数)

【神奈川の未婚者割合】

2015年		男性(%)	女性(%)
年齢			
20代前半	20~24歳	91.91	90.30
20代後半	25~29歳	71.91	62.36
30代前半	30~34歳	47.45	34.53
30代後半	35~39歳	35.44	23.26
40代前半	40~44歳	31.18	18.92
40代後半	45~49歳	26.59	15.42
50代前半	50~54歳	21.79	11.76
50代後半	55~59歳	17.58	8.64
60代前半	60~64歳	15.07	6.45

*平成27年国勢調査をもとに、県統計センターで算出

*日本人・外国人の別「不詳」を含む。

*配偶関係「不詳」を除いて算出。

注釈

1-08

1) 婚姻率の小数点以下第2位は県統計センター算出。

人口性比

1-11

(女性100人に対する男性の数)

99.82

指標 2015年10月1日現在の神奈川の人口性比は99.82で全国第2位です。男女の内訳は、男性が455万8978人、女性が456万7236人です。全国の人口性比は94.77で、全都道府県で女性人口が男性人口を上回っています。

この統計は [平成27年国勢調査]

用語 人口性比

人口性比とは女性100人に対する男性の数をいいます。

$$\text{人口性比} = \frac{\text{男性人口}}{\text{女性人口}} \times 100$$

昼夜間人口比率

1-12

(夜間人口を100とした場合の昼間人口)

91.20

指標 2015年10月1日現在の神奈川の昼夜間人口比率は91.20で、全国第44位です。神奈川の昼間人口は832万2926人で、夜間人口(常住人口)は912万6214人です。首都圏の1都3県では、東京が117.80と最も高く、他の3県はいずれも100を大きく下回っています。

この統計は [平成27年国勢調査]

用語 昼夜間人口比率

夜間人口100人当たりの昼間人口の比率をいいます。

$$\text{昼夜間人口比率} = \text{昼間人口} / \text{夜間人口} \times 100$$

県外通勤・通学者数 113万1482人 全国第1位 1-13
他県からの通勤・通学者数 32万8194人 1-14

指標 2015年10月1日現在の神奈川県民のうち、通勤者と通学者は合計で467万5293人となっています。このうち113万1482人(通勤99万7585人、通学13万3897人)が県外へ通勤・通学しておりその数は全国第1位です。また、そのうちの106万8505人が東京へ通勤・通学しています。一方、他県から神奈川への通勤・通学者は32万8194人(通勤27万7379人、通学5万815人)です。

この統計は [平成27年国勢調査]

用語 通勤者・通学者

「通勤者」とは、従業の場所が常住の場所(自宅)と異なる就業者をいいます。「通学者」とは非労働力人口のうち、調査週間中、学校に通っていた者をいいます。この場合の学校には、幼稚園や認定こども園は含まれません。

統計情報 国勢調査

平成27年国勢調査 [総務省統計局]

公表日: 2016. 2. 26~順次公表

公表周期: 5年ごと

日本の人口・世帯の実態を明らかにすることを目的として行う国の最も重要な統計調査で、日本国内に住んでいるすべての人及び世帯を対象としています。

在留外国人数

1-15

19万1741人

指標 2016年末の神奈川の在留外国人数は19万1741人で、全国第4位です。全国の在留外国人数は238万2822人です。最も多いのは東京で、全国の21.0%を占めます。

神奈川の在留外国人を国籍・地域別にみると、中国が最も多く、次いで韓国、フィリピン、ベトナム、ブラジルの順となっています。

この統計は [在留外国人統計]

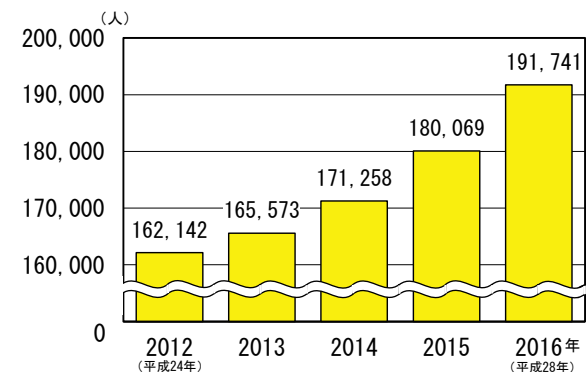
用語 在留外国人統計(旧登録外国人統計)

平成24年7月の制度改正により、外国人登録制度は廃止され、新たな在留管理制度が導入されました。この制度改正により対象範囲が変わったため、在留外国人数と従来の外国人登録者数とを単純に比較することはできません。

神奈川の在留外国人の国籍・地域(2016年12月末)

アジア	158,275
中国	62,493
韓国	27,660
フィリピン	20,458
その他	47,664
南米	17,001
ヨーロッパ	6,952
北米	6,757
アフリカ	1,710
オセアニア	964
無国籍	82
合計	191,741

神奈川の在留外国人数の推移



統計情報 在留外国人統計

在留外国人統計

[法務省入国管理局]

公表日: 2017. 3. 17

公表周期: 半年ごと

在留外国人数を都道府県別や国籍別、在留資格別などで集計しています。

●人口性比

1-11

2015年
人口性比の上位 (女性100人に対する男性の数)

順位	都道府県	男性人口	女性人口	人口性比
	全国	61,842	65,253	94.77
1	愛知	3,741	3,742	99.96
2	神奈川	4,559	4,567	99.82
3	埼玉	3,628	3,638	99.73
4	茨城	1,454	1,463	99.33
5	千葉	3,096	3,127	99.01
6	栃木	982	993	98.89
7	福島	946	968	97.65
8	群馬	973	1,000	97.34
9	東京	6,667	6,849	97.34
10	滋賀	697	716	97.34

人口性比の下位

順位	都道府県	男性人口	女性人口	人口性比
	全国	61,842	65,253	94.77
38	佐賀	393	440	89.38
39	北海道	2,537	2,845	89.19
40	熊本	841	945	88.99
41	高知	343	386	88.87
42	和歌山	453	510	88.80
43	宮崎	519	585	88.79
44	青森	615	694	88.63
45	秋田	480	543	88.50
46	鹿児島	773	875	88.34
47	長崎	646	731	88.29

平成27年国勢調査

●昼夜間人口比率

1-12

2015年
上位 (夜間人口を100とした場合の昼間人口)

順位	都道府県	値
	全国	100
1	東京	117.80
2	大阪	104.35
3	京都	101.76
4	愛知	101.38
5	宮城	100.25
6	佐賀	100.24
7	香川	100.23
8	石川	100.22
9	広島	100.21
10	福島	100.20

下位

順位	都道府県	値
38	三重	98.29
39	和歌山	98.22
40	茨城	97.46
41	滋賀	96.52
42	岐阜	96.10
43	兵庫	95.65
44	神奈川	91.20
45	奈良	90.04
46	千葉	89.71
47	埼玉	88.85

平成27年国勢調査

●県外通勤・通学者数

1-13

2015年
上位

順位	都道府県	値
	全国	5,812,650
1	神奈川	1,131,482
2	埼玉	1,073,576
3	千葉	832,707
4	東京	500,941
5	兵庫	384,247
6	大阪	283,107
7	奈良	193,837
8	茨城	160,977
9	京都	158,799
10	岐阜	130,130

下位

順位	都道府県	値
38	北海道	9,660
39	島根	9,434
40	愛媛	9,083
41	宮崎	9,034
42	青森	8,964
43	徳島	7,958
44	福井	7,920
45	秋田	5,634
46	高知	3,688
47	沖縄	2,629

平成27年国勢調査

●他県からの通勤・通学者数

1-14

2015年
上位

順位	都道府県	値
	全国	5,812,650
1	東京	2,906,075
2	大阪	667,944
3	神奈川	328,194
4	埼玉	263,494
5	京都	204,799
6	愛知	199,954
7	千葉	192,282
8	兵庫	143,521
9	茨城	86,852
10	福岡	76,896

下位

順位	都道府県	値
38	宮崎	8,399
39	新潟	8,052
40	福井	7,916
41	青森	6,982
42	北海道	6,713
43	山形	6,472
44	徳島	5,144
45	秋田	3,157
46	高知	3,056
47	沖縄	2,173

平成27年国勢調査

●在留外国人数

1-15

2016年
上位

順位	都道府県	値
	全国	2,382,822
1	東京	500,874
2	愛知	224,424
3	大阪	217,656
4	神奈川	191,741
5	埼玉	152,486
6	千葉	133,071
7	兵庫	101,562
8	静岡	79,836
9	福岡	64,998
10	茨城	58,182

下位

順位	都道府県	値
38	山形	6,378
39	岩手	6,275
40	和歌山	6,233
41	徳島	5,476
42	佐賀	5,203
43	宮崎	5,100
44	青森	4,568
45	鳥取	4,156
46	高知	3,997
47	秋田	3,695

在留外国人統計

注釈

- 1-11、1-13、1-14
1) 2015年10月1日現在の値。
1-12
1) 2015年10月1日現在の値。
2) 夜間人口=調査時に当該地域に常住している人口
3) 昼間人口=当該地域の夜間人口から、他の地域へ通勤・通学している者を減じ、他の地域から通勤・通学に来ている者を加えた人口

- 1-15
1) 2016年12月31日現在の値。
2) 全国総数には、都道府県が「未定・不詳」のものを含む。

生産年齢人口(15~64歳人口)の推移

1-16

574万4千人 5年で95.9%

指標 2015年の神奈川の生産年齢人口を2010年と比べると24万4474人減少し、574万4383人となりました。5年間の増減をみると95.9%で、全国第4位です。

全国では474万3064人減少し、7628万8736人となりました。5年間の増減は94.1%で、全都道府県で生産年齢人口が減少しました。

この統計は [平成22年・27年国勢調査]

年少人口(0~14歳人口)の推移

1-17

114万1千人 5年で96.0%

指標 2015年の神奈川の年少人口を2010年と比べると4万6955人減少し、114万748人となりました。5年間の増減をみると96.0%で、全国第7位です。

全国では91万6634人減少し、1588万6810人となりました。5年間の増減は94.5%で、増加したのは東京、沖縄のみで、神奈川を含む45県で減少しました。

この統計は [平成22年・27年国勢調査]

老年人口(65歳以上人口)の推移

1-18

215万8千人 5年で118.6%

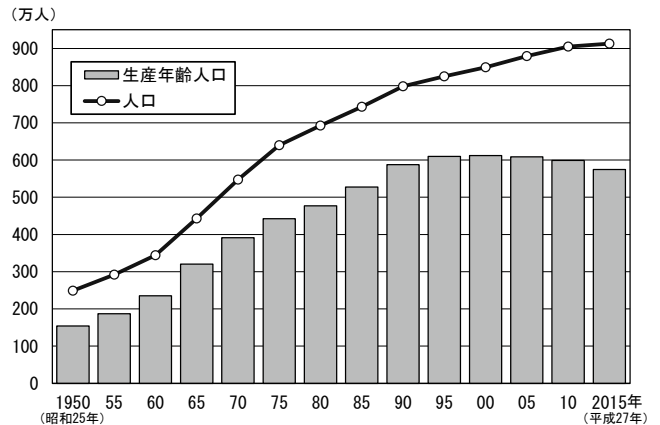
指標 2015年の神奈川の老年人口を2010年と比べると33万8654人増加し、215万8157人となりました。5年間の増減をみると118.6%で、全国第3位です。

全国では421万9756人増加し、3346万5441人となりました。5年間の増減は114.4%で、全都道府県で老年人口が増加しました。

この統計は [平成22年・27年国勢調査]



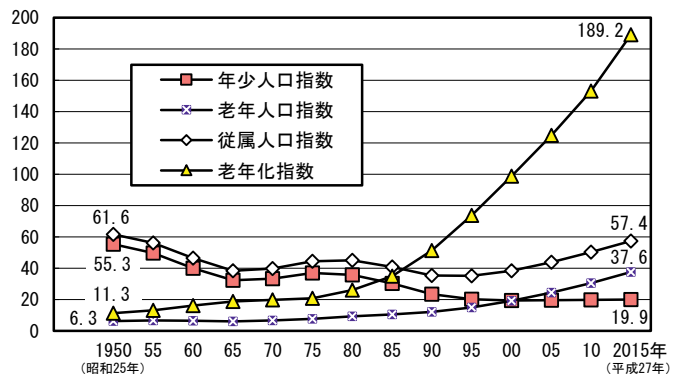
神奈川の人口と生産年齢人口の推移



神奈川の人口は戦後、一貫して増加している一方で、生産年齢人口は2005年の調査以降減少しています。

この統計は [国勢調査]

神奈川の年齢構造指数の推移



2015年10月1日現在の神奈川の年齢構造指数のうち、従属人口指数は57.4となっています。これによると、1.7人の生産年齢者で1人の年少者又は高齢者を支えていることを示しています。また、老年化指数は189.2で、年少者1人に対し高齢者1.9人の割合となっています。

なお、これらの値はすべて全国値(年少人口指数20.8、老年人口指数43.9、従属人口指数64.7、老年化指数210.6)より低くなっています。

この統計は [国勢調査]

用語 年齢構造指数(年少人口指数、老年人口指数、従属人口指数、老年化指数)

年少人口指数: 年少人口/生産年齢人口×100

老年人口指数: 老年人口/生産年齢人口×100

従属人口指数: (年少人口+老年人口)/生産年齢人口×100

老年化指数: 老年人口/年少人口×100

統計情報 国勢調査

平成27年国勢調査 [総務省統計局]

公表日: 2016.2.26~順次公表

公表周期: 5年ごと

日本の人口・世帯の実態を明らかにすることを目的として行う国の最も重要な統計調査で、日本国内に住んでいるすべての人及び世帯を対象にしています。

トピックス 神奈川県年齢別人口統計調査

神奈川県年齢別人口統計調査(平成29年1月1日現在) [県統計センター]

公表日: 2017.8.31 公表周期: 毎年

平成27年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出したものです。

●生産年齢人口(15~64歳人口)の推移

1-16

推移

5年間の増減の上位

順位	都道府県	生産年齢人口		5年間の増減
		2010	2015	10年→15年
		千人	千人	%
	全 国	81,032	76,289	94.1
1	沖 縄	898	892	99.3
2	東 京	8,850	8,734	98.7
3	愛 知	4,791	4,619	96.4
4	神奈川	5,989	5,744	95.9
5	滋 賀	898	858	95.6
6	埼 玉	4,749	4,507	94.9
7	福 岡	3,228	3,058	94.7
8	大 阪	5,648	5,342	94.6
9	千 葉	4,009	3,780	94.3
10	広 島	1,765	1,663	94.2

5年間の増減の下位

順位	都道府県	生産年齢人口		5年間の増減
		2010	2015	10年→15年
		千人	千人	%
38	宮 崎	681	623	91.4
39	奈 良	875	797	91.0
40	島 根	414	377	91.0
41	徳 島	472	428	90.7
42	山 口	858	778	90.7
43	福 島	1,236	1,120	90.6
44	愛 媛	859	776	90.4
45	青 森	844	758	89.8
46	高 知	448	401	89.5
47	秋 田	640	565	88.4

平成22年・27年国勢調査

●年少人口(0~14歳人口)の推移

1-17

推移

5年間の増減の上位

順位	都道府県	年少人口		5年間の増減
		2010	2015	10年→15年
		千人	千人	%
	全 国	16,803	15,887	94.5
1	東 京	1,477	1,518	102.8
2	沖 縄	246	247	100.4
3	福 岡	684	676	98.8
4	広 島	387	376	97.2
5	熊 本	250	241	96.6
6	滋 賀	211	203	96.5
7	神奈川	1,188	1,141	96.0
8	愛 知	1,065	1,023	96.0
9	埼 玉	954	911	95.5
10	千 葉	800	762	95.3

5年間の増減の下位

順位	都道府県	年少人口		5年間の増減
		2010	2015	10年→15年
		千人	千人	%
38	和歌山	128	116	90.9
39	富 山	142	129	90.8
40	山 形	150	136	90.7
41	高 知	93	84	90.4
42	徳 島	97	87	90.1
43	岩 手	169	151	89.4
44	山 梨	115	102	88.7
45	青 森	172	148	86.2
46	秋 田	124	106	85.5
47	福 島	276	229	82.9

平成22年・27年国勢調査

●老年人口(65歳以上人口)の推移

1-18

推移

5年間の増減の上位

順位	都道府県	老年人口		5年間の増減
		2010	2015	10年→15年
		千人	千人	%
	全 国	29,246	33,465	114.4
1	埼 玉	1,465	1,789	122.1
2	千 葉	1,320	1,584	120.0
3	神奈川	1,820	2,158	118.6
4	愛 知	1,492	1,761	118.0
5	滋 賀	289	338	117.0
6	奈 良	334	389	116.4
7	福 岡	1,123	1,305	116.1
8	京 都	606	703	116.1
9	大 阪	1,963	2,278	116.1
10	茨 城	665	772	116.0

5年間の増減の下位

順位	都道府県	老年人口		5年間の増減
		2010	2015	10年→15年
		千人	千人	%
38	長 野	569	626	110.0
39	長 崎	369	405	109.6
40	和歌山	271	296	109.4
41	高 知	218	237	108.6
42	福 島	504	542	107.5
43	島 根	207	223	107.4
44	岩 手	360	387	107.2
45	秋 田	320	343	107.1
46	山 形	322	344	107.0
47	鹿 児 島	450	480	106.7

平成22年・27年国勢調査

注釈

1-16~1-18

- 1) いずれも10月1日現在の値。
- 2) 5年間の増減は県統計センター算出。算出結果に基づき順位を決定している。

1 世帯当たり人員

1-19

2.26人

指標 2015年10月1日現在の神奈川の1世帯当たり人員は2.26人で、全国第40位です。5年前からは0.07人、10年前からは0.17人減少しています。

この統計は [平成17年・22年・27年国勢調査]

用語 世帯、一般世帯、1世帯当たり人員

本ページは国勢調査の区分によります。詳細は右ページ注釈を参照してください。国勢調査では世帯を「一般世帯」と「施設等の世帯」に区分しています。このページで掲載する内容は、一般世帯の内訳項目です。

$$1 \text{ 世帯当たり人員 (一般世帯の平均人員)} = \text{一般世帯人員} / \text{一般世帯数}$$

核家族世帯割合

1-20

58.39%

指標 2015年10月1日現在の神奈川の核家族世帯割合は58.39%で、全国第12位です。全国平均より2.60ポイント高くなっています。

この統計は [平成27年国勢調査]

用語 核家族世帯、核家族世帯割合

核家族世帯とは一般世帯のうち次のものを示します。

- (1) 夫婦のみの世帯
- (2) 夫婦と子供から成る世帯
- (3) 男親と子供から成る世帯
- (4) 女親と子供から成る世帯

$$\text{核家族世帯割合} = \text{核家族世帯数} / \text{一般世帯数} * 100$$

*この一般世帯数には、世帯の家族類型「不詳」を含みます。

単独世帯割合

1-21

35.50%

指標 2015年10月1日現在の神奈川の単独世帯割合は35.50%で、全国第8位です。

なお、核家族世帯と単独世帯を合わせると、一般世帯の93.89%を占めます。

この統計は [平成27年国勢調査]

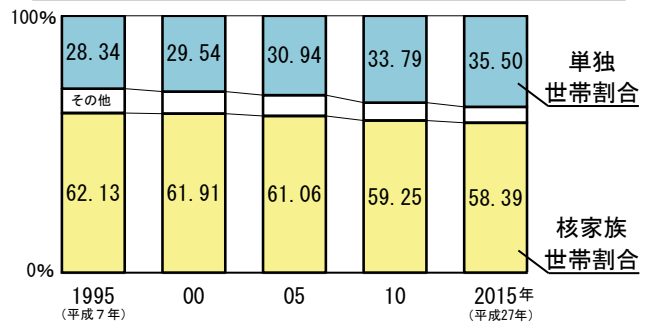
用語 単独世帯

単独世帯とは、世帯人員が1人の世帯のことです。

$$\text{単独世帯割合} = \text{単独世帯数} / \text{一般世帯数} * 100$$

*この一般世帯数には、世帯の家族類型「不詳」を含みます。

神奈川の核家族世帯割合と単独世帯割合の推移



高齢単身世帯割合

10.06%

1-22

高齢夫婦世帯割合

10.79%

1-23

指標 2015年10月1日現在の神奈川の高齢単身世帯割合は10.06%で、全国第34位です。また、高齢夫婦世帯の割合は10.79%で、全国第39位です。

なお、神奈川の高齢単身世帯と高齢夫婦世帯を合わせると、一般世帯の20.85%を占めます。

この統計は [平成27年国勢調査]

用語 高齢単身世帯・高齢夫婦世帯

高齢単身世帯とは、65歳以上の人1人のみの一般世帯をいいます。高齢夫婦世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯をいいます。

$$\text{高齢単身世帯割合} = \text{高齢単身世帯数} / \text{一般世帯数} * 100$$

$$\text{高齢夫婦世帯割合} = \text{高齢夫婦世帯数} / \text{一般世帯数} * 100$$

*この一般世帯数には、世帯の家族類型「不詳」を含みます。

高齢者に関する割合の比較

	65歳以上人口が人口総数に占める割合 (A)		団塊の世代の人口が65歳以上人口に占める割合 (B)	
	%	順位	%	順位
石川	27.48	31	20.61	1
埼玉	24.62	42	20.49	2
千葉	25.46	40	20.29	3
神奈川	23.65	44	19.51	14
秋田	33.55	1	16.92	45
岩手	30.21	9	16.78	46
山形	30.64	6	16.49	47

神奈川では、65歳以上人口が神奈川の人口総数に占める割合は23.65%、また団塊の世代の人口が神奈川の65歳以上人口に占める割合は19.51%です。

*いわゆる「団塊の世代」とは、昭和22年(1947年)～昭和24年(1949年)に生まれた男女を指します。この表では、平成27年(2015年)国勢調査時点で66歳～68歳の男女を「団塊の世代」としました。

統計情報 国勢調査

平成27年国勢調査 [総務省統計局]
公表日：2016.2.26～順次公表
公表周期：5年ごと
日本の人口・世帯の実態を明らかにすることを目的として行われる最も重要な統計調査で、日本国内に住んでいるすべての人及び世帯を対象としています。

トピックス

平成27年国勢調査結果 神奈川の世帯数

世帯数総数	世帯人員別の世帯数 (一般世帯)				
	1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯
3,979,278	1,407,541	1,096,689	721,900	552,369	144,024
一般世帯	6人世帯	7人世帯	8人世帯	9人世帯	10人以上世帯
3,965,190	32,199	8,047	1,833	425	163
世帯人員数	8,965,993				
施設等の世帯	14,088				

●1世帯当たり人員

1-19

推移
2015年の上位

順位	都道府県	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)
	全 国	2.55	2.42	2.33
1	山 形	3.09	2.94	2.78
2	福 井	3.00	2.86	2.75
3	佐 賀	2.94	2.80	2.67
4	富 山	2.93	2.79	2.66
5	新 潟	2.93	2.77	2.65
6	岐 阜	2.92	2.78	2.65
7	滋 賀	2.85	2.69	2.59
8	鳥 取	2.83	2.71	2.57
9	福 島	2.91	2.76	2.56
10	秋 田	2.85	2.71	2.55

2015年の下位

順位	都道府県	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)
	全 国	2.55	2.42	2.33
38	愛 媛	2.47	2.37	2.28
39	山 口	2.46	2.36	2.27
40	神 奈 川	2.43	2.33	2.26
41	福 岡	2.47	2.35	2.26
42	京 都	2.43	2.31	2.22
43	大 阪	2.40	2.28	2.22
44	高 知	2.38	2.30	2.20
45	鹿 児 島	2.35	2.27	2.20
46	北 海 道	2.31	2.21	2.13
47	東 京	2.13	2.03	1.99

平成17年・22年・27年国勢調査

●核家族世帯割合

1-20

2015年 上位		下位	
順位	都道府県	順位	都道府県
	全 国		全 国
	55.79		53.11
1	奈 良	38	鳥 取
2	埼 玉	39	新 潟
3	和歌山	40	福 井
4	宮 崎	41	秋 田
5	兵 庫	42	島 根
6	群 馬	43	福 島
7	千 葉	44	宮 城
8	滋 賀	45	岩 手
9	三 重	46	山 形
10	沖 縄	47	東 京
12	神 奈 川		
	58.39		47.84

平成27年国勢調査

●単独世帯割合

1-21

2015年 上位		下位	
順位	都道府県	順位	都道府県
	全 国		全 国
	34.53		28.36
1	東 京	38	茨 城
2	京 都	39	秋 田
3	大 阪	40	長 野
4	福 岡	41	新 潟
5	北 海 道	42	佐 賀
6	高 知	43	福 井
7	鹿 児 島	44	富 山
8	神 奈 川	45	岐 阜
9	広 島	46	奈 良
10	宮 城	47	山 形

平成27年国勢調査

●高齢単身世帯割合

1-22

2015年 上位		下位	
順位	都道府県	順位	都道府県
	全 国		全 国
	11.11		10.06
1	高 知	38	岐 阜
2	鹿 児 島	39	新 潟
3	和歌山	40	山 形
4	山 口	41	埼 玉
5	愛 媛	42	沖 縄
6	宮 崎	43	愛 知
7	大 阪	44	栃 木
8	長 崎	45	宮 城
9	北 海 道	46	茨 城
10	大 分	47	滋 賀

平成27年国勢調査

●高齢夫婦世帯割合

1-23

2015年 上位		下位	
順位	都道府県	順位	都道府県
	全 国		全 国
	11.40		10.93
1	山 口	38	岩 手
2	奈 良	39	神 奈 川
3	和歌山	40	愛 知
4	宮 崎	41	山 形
5	鹿 児 島	42	福 岡
6	大 分	43	栃 木
7	愛 媛	44	福 島
8	香 川	45	宮 城
9	北 海 道	46	東 京
10	三 重	47	沖 縄

平成27年国勢調査

注釈

1-19~1-23

1) いずれも10月1日現在の値。

国勢調査における世帯の種類。「一般世帯」と「施設等の世帯」

世帯は次のとおり「一般世帯」と「施設等の世帯」に区分される。

一般世帯

ア) 住居と生計を共にしている人の集まり又は一戸を構えて住んでいる単身者。ただし、これらの世帯と住居を共にする単身の住み込みの雇人については、人数に関係なく雇主の世帯に含めている。

イ) 上記の世帯と住居を共にし、別に生計を維持している間借りるの単身者又は下宿屋などに下宿している単身者。

ウ) 会社・団体・商店・官公庁などの寄宿舎、独身寮などに居住している単身者。

施設等の世帯

- 寮・寄宿舎の学生・生徒（学校の寮・寄宿舎で起居を共にし、通学している学生・生徒の集まり）
- 病院・療養所の入院者（病院・療養所などに、すでに3か月以上入院している入院患者の集まり）
- 社会施設の入所者（老人ホーム、児童保護施設などの入所者の集まり）
- 自衛隊営舎内居住者（自衛隊の営舎内又は艦船内の居住者の集まり）
- 矯正施設の入所者（刑務所及び拘置所の被収容者並びに少年院及び婦人補導院の在院者の集まり）
- その他（定まった住居を持たない単身者や陸上に生活の本拠（住所）を有しない船舶乗組員など）

なお、世帯の単位は、原則として上記(1)～(3)は棟ごと、(4)は中隊又は艦船ごと、(5)は建物ごと、(6)は一人一人である。

1. 人口・自然

面積	2415.83km ²	1-24 1-25
面積割合	0.65%	

指標 2015年の神奈川の面積は2415.83km²です。全国総面積の0.65%を占めており、全国第43位と5番目に狭い面積です。神奈川は、ルクセンブルク大公国の総面積（2586km²、2015年）と同じくらいの面積です。

なお、1920年（大正9年）の神奈川は面積は2351.63km²で、臨海地域の埋め立てなどにより95年間で約64.2km²増加しました。

この統計は [平成27年国勢調査][平成27年全国都道府県市区町村別面積調][社会生活統計指標2017][世界の統計2017]

可住地面積割合	60.9%	1-26 1-27
自然公園面積割合	22.8%	

指標 2015年の神奈川の可住地面積は1470.59km²です。可住地面積割合は60.9%で、全国第6位です。

2015年の神奈川の自然公園面積は、551.38km²です。自然公園面積割合は22.8%で、全国第11位です。

なお、可住地面積と自然公園面積は下記の通り算式が異なるため、重複して計算されています。

この統計は [統計でみる都道府県のすがた2017]

用語 可住地面積、自然公園面積

可住地面積：面積から林野面積と主要湖沼面積を差し引いて算出したもの

自然公園面積：自然風景地の保護とともに自然とのふれあいを図ることを目的として指定される地域の合計

可住地面積割合＝可住地面積／各都道府県の面積

自然公園面積割合＝自然公園面積／各都道府県の面積

*各都道府県の面積には北方地域及び竹島は含まれません。

年間降水量	1836mm	1-28 1-29
年間快晴日数	41日	

指標 2015年の神奈川の年間降水量は1836mmで全国第17位です。また年間快晴日数は41日で全国第7位です。

神奈川は、関東平野の南西部に位置し、東京湾と相模湾に面し、丹沢・大山、箱根連山を擁しており、温暖で快晴の日が多くかつ比較的雨量の多い気候です。

この統計は [社会生活統計指標2017]

用語 気象用語

年平均気温：℃単位で小数第1位まで観測し、1日24回の観測値から日平均気温を求め、それから算出した年平均気温。

最高気温、最低気温：毎日の連続的観測記録のうち、1日の最高（最低）気温から、月平均の日最高（最低）気温を求め、それらの月平均気温のうち、年間を通じて最高（最低）の月平均気温。

年間日照時間：回転式日照計による値であり、直射日光が地表を照射した時間の年間の合計。

年間降水量：転倒ます型雨量計による観測値で年間の総降水量をmm単位で示したもの。

年間快晴日数：日平均雲量（10分比）が、1.5未満の日を快晴の日とし、その年間の日数。

年間降水日数：日降水量が1mm以上あった日の年間の日数。

年間雪日数：雪、しゅう雪、吹雪、みぞれ、霧雪及び細氷のうち一つ以上の現象が観測された日の年間（前年の8月から当年の7月まで）の日数で、雪あられ、氷あられ、凍雨、ひょうは含まない。

※数値は県庁所在市のデータである。ただし東京都は千代田区、埼玉は熊谷市、滋賀は彦根市における気象台の観測値である。

2015年の気象記録

	神奈川		最高		最低		中位の値	
	値	全国順位	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県
年平均気温（℃）	16.7	17位	23.6	沖縄	10.0	北海道	16.4	東京
最高気温（℃）	30.2	39位	33.6	京都	26.4	北海道	31.4	福島・鳥取・愛媛・福岡
最低気温（℃）	2.7	31位	14.3	沖縄	-4.6	北海道	1.8	東京
年間日照時間（時間）	2,076	10位	2,205	山梨	1,685	福井	1,947	長野
年間降水量（mm）	1,836	17位	3,664	鹿児島	1,004	青森	1,678	大分
年間快晴日数（日）	41	7位	55	埼玉	9	山形・新潟・長野・沖縄	25	広島・鹿児島
年間降水日数（日）	119	24位	174	富山・石川	100	宮城・山梨・岡山	119	神奈川
年間雪日数（日）	8	40位	108	北海道	0	沖縄	18	岡山

統計情報 国勢調査

平成27年国勢調査 [総務省統計局]
公表日：2016.2.26～順次公表
公表周期：5年ごと
日本の人口・世帯の実態を明らかにすることを目的として行われる最も重要な統計調査で、日本国内に住んでいるすべての人及び世帯を対象としています。

統計情報 社会生活統計指標 -都道府県の指標-

社会生活統計指標 -都道府県の指標- 2017 [総務省統計局]
公表日：2017.2月刊行 公表周期：毎年
社会・人口統計体系において整備した基礎データを用いて作成している統計指標の中から、都道府県別の主要なデータを報告書に取りまとめたものです。

●面積 1-24

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	377,970.75		全国	377,970.75
		km ²			km ²
1	北海道	83,424.31	38	滋賀	4,017.38
2	岩手	15,275.01	39	埼玉	3,797.75
3	福島	13,783.74	40	奈良	3,690.94
4	長野	13,561.56			
5	新潟	12,584.10	41	鳥取	3,507.05
			42	佐賀	2,440.68
6	秋田	11,637.54	43	神奈川	2,415.83
7	岐阜	10,621.29	44	沖縄	2,281.12
8	青森	9,645.59	45	東京	2,190.93
9	山形	9,323.15			
10	鹿児島	9,186.94	46	大阪	1,905.14
			47	香川	1,876.72

平成27年国勢調査

●面積割合 1-25

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	100		全国	100
		%			%
1	北海道	21.03	38	滋賀	1.08
2	岩手	4.10	39	埼玉	1.02
3	福島	3.70	40	奈良	0.99
4	長野	3.64			
5	新潟	3.37	41	鳥取	0.94
			42	佐賀	0.65
6	秋田	3.12	43	神奈川	0.65
7	岐阜	2.85	44	沖縄	0.61
8	青森	2.59	45	東京	0.59
9	山形	2.50			
10	鹿児島	2.46	46	大阪	0.51
			47	香川	0.50

社会生活統計指標2017

●可住地面積割合 1-26

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	32.9		全国	32.9
		%			%
1	大阪	69.8	38	徳島	24.4
2	千葉	68.9	39	岩手	24.3
3	埼玉	68.1	40	宮崎	23.9
4	茨城	65.2			
5	東京	64.7	41	長野	23.8
			42	和歌山	23.6
6	神奈川	60.9	43	奈良	23.2
7	愛知	57.8	44	山梨	21.4
8	福岡	55.4	45	岐阜	20.8
9	佐賀	54.7			
10	香川	53.6	46	島根	19.4
			47	高知	16.4

統計でみる都道府県のすがた2017

●自然公園面積割合 1-27

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	14.8		全国	14.8
		%			%
1	滋賀	37.3	38	和歌山	10.5
2	東京	36.5	39	鹿児島	9.7
3	三重	35.0	40	徳島	9.3
4	埼玉	32.8			
5	富山	29.6	41	愛媛	7.2
			42	山口	7.0
6	沖縄	29.0	43	高知	6.7
7	大分	27.5	44	島根	6.0
8	山梨	27.1	45	千葉	5.5
9	新潟	25.2			
10	宮城	23.5	46	岩手	4.7
			47	広島	4.5
11	神奈川	22.8			

統計でみる都道府県のすがた2017

●年間降水量 1-28

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	-		全国	-
		mm			mm
1	鹿児島	3,664	38	福島	1,284
2	宮崎	3,193	39	北海道	1,275
3	高知	2,967	40	群馬	1,232
4	静岡	2,805			
5	長崎	2,392	41	茨城	1,227
			42	香川	1,210
6	福井	2,300	43	山梨	1,115
7	熊本	2,292	44	岩手	1,094
8	岐阜	2,267	45	長野	1,058
9	石川	2,165			
10	富山	2,141	46	山形	1,027
			47	青森	1,004
17	神奈川	1,836			

社会生活統計指標2017

●年間快晴日数 1-29

2015年 上位			下位		
順位	都道府県	値	順位	都道府県	値
	全国	-		全国	-
		日			日
1	埼玉	55	35	北海道	14
2	宮崎	53	35	石川	14
3	高知	50			
4	静岡	49	37	宮城	13
5	茨城	42	37	秋田	13
			39	富山	12
5	栃木	42	40	青森	11
			40	福島	11
7	神奈川	41			
8	東京	39	42	山形	9
9	群馬	37	42	新潟	9
10	山梨	35	42	長野	9
10	岡山	35	42	沖縄	9

社会生活統計指標2017

統計情報 統計でみる都道府県のすがた

統計でみる都道府県のすがた2017[総務省統計局]
公表日：2017年2月刊行 公表周期：毎年
「社会生活統計指標-都道府県の指標-」の中から、
主な指標値を選定し、各都道府県の指標が一覧できる
ように再編成したものです。444指標を掲載していま
す。

注釈

- 1-24、1-25
1) 2015年10月1日現在の値。
2) 面積は全国都道府県市区町村別面積調[国土交通省国土地理院]による。河川及び湖沼は陸域に含めている。
3) 国勢調査令(昭和55年政令第98号)の規定に基づき、調査の対象から除外した次の地域の面積は除いて算出した。
・歯舞諸島
・北方地域(色丹島、国後島、択捉島(属島を含む))
・竹島
- 1-26、1-27
1) 2015年10月1日現在の値。
- 1-29
1) 千葉及び山口はデータが無いので、順位をつけていない。

人口・自然編からのクイズ かながわ Q&A



Q 1 神奈川の人口はおよそ何人？
(2015年10月1日現在)

- ① 1351万5千人
- ② 912万6千人
- ③ 883万9千人

Q 2 神奈川の人口密度 (1km²当たり) は全国第何位？ (2015年10月1日現在)

- ① 1位
- ② 2位
- ③ 3位

Q 3 神奈川の人口増減率は？
(2016年)

- ① 0.80%
- ② 0.20%
- ③ -0.13%

Q 4 神奈川の人口1000人当たりの婚姻率は？
(2015年)

- ① 6.64
- ② 5.37
- ③ 4.93

Q 5 神奈川の合計特殊出生率は全国第何位？
(2015年)

- ① 18位
- ② 28位
- ③ 38位

Q 6 神奈川の県外通勤・通学者数は全国第何位？ (2015年10月1日現在)

- ① 1位
- ② 2位
- ③ 3位

Q 7 神奈川県内の在留外国人数は？
(2016年末現在)

- ① 16万2142人
- ② 17万1258人
- ③ 19万1741人

Q 8 神奈川の老年人口はおよそ何人？ (2015年10月1日現在)

- ① 114万1千人
- ② 215万8千人
- ③ 574万4千人

Q 9 神奈川の単独世帯割合は全国第何位？
(2015年10月1日現在)

- ① 8位
- ② 18位
- ③ 28位

Q 10 神奈川の自然公園面積割合は？
(2015年)

- ① 14.8%
- ② 22.8%
- ③ 36.5%

Q 11 神奈川の年間降水量は全国第何位？
(2015年)

- ① 17位
- ② 27位
- ③ 37位



答えは84ページ